

「今」と「未来」

校 長 宅島 健司

「田原台の風」前々号「雲中に在りて、雲上を想う」では、自分の興味関心が働くものごとを幅広く探そうという内容で、前号「そうだね そうだね」は好きなもの、これだと自分が決めたものごとを深掘りしようという内容でした。前者が広く浅く、後者は狭く深くというものでした。ものごとを行う際に、質と量がよく問われます。最初から質を追い求める方法もあるでしょうが、量から質に転化していくのが一般です。例えば、グルメと呼ばれる人は、必ず多食な時期があり、その経験に基づいて段々舌が肥えて、美味いと不味いを感じるようになり、料理人の上手下手を判じることができるようになります。そうなるまでには意識的に感覚を磨き、考えを深め、料理の良し悪しを吟味することが必要でしょう。そうして初めて量から質への変化がなされるのだと思います。では質を追い求められるようになったらそれで終わりかというところではありません。深く知れば知るほどその奥深さやそのものの持つ豊かさを知ることになり、不確かなものや分からないものを発見することになります。深く知るほど新たな疑問が湧いてくるものだからです。プロフェッショナルと呼ばれる人たちは、自分の独自の流儀に従い、ホンモノを追い求め続けているのだと思います。そして、経験を積むことによって「腕」を磨いているのだと思います。

さて、16年続いている「SCHOOL OF LOCK!」というTOKYO FMのラジオ番組があります。毎週金曜日、受験生と電話をつなぎ、その意気込みや悩みを聞くコーナーについての話です。パーソナリティは、お笑いコンビ・サンシャインの坂田光：さかた校長とGENERATIONSの小森隼：こもり教頭です。あるリスナーが地元の私立大学の心理学部を目指し、平日4時間休日7時間ほどの勉強をしている。模試の判定はCとDを行ったり来たりだと言う。このリスナーが受験にまつわる宣言「宣言メイト」の中で、

“未来の自分が頑張ってくれる”と書いていた意味をこもり教頭が尋ねた。

リスナーは「今を頑張るんじゃないくて、“明日の自分だったらちゃんとやってるんじゃないか”っていうので、ダラダラしちゃったり、それで結局、何もしなくて焦って自己嫌悪になっちゃうことがすごく多いです。」と答える。

こもり教頭が「なんで楽観視しがちになっちゃうの？」と尋ねる。

リスナーは「すぐに勉強の成果が出なくて、“このままやってもダメなんじゃないか”とネガティブになっちゃって、それで現実逃避じゃないですけど、そういうふうになっちゃうのはあります。」と答える。

こもり教頭が「じゃあ今、受験に対しての想いはあるけれどモチベーションが高くない状態ってこと？」と尋ねる。

リスナーは「あー、そうかもしれないです。」と答える。

このリスナーに対する校長・教頭のエールは

○ さかた校長「明日はない。“今”が続くだけだ!!」

言い聞かせているんだけど、俺も結構先延ばしにしちゃうの。“まだ時間あるよな”“明日がある”って思っちゃうんだけど、結局それで追い詰められちゃうんだよね。だから、明日っていうのは、希望がないとかじゃなくて“最高の今をただ繰り返すだけ”で明日にたどり着くだけだから。今の最高の“私、今日頑張った!”っていうのを、勝負の日までに毎日やれば、たぶん最高の結果が待っていると思うから。1日1日を一生懸命向き合って勉強してもらいたいな。

○ こもり教頭「今は“未来から来た自分”だから大切に」

いろいろやってくなかで、“あのときこうしていれば良かったな”って思うことっていっぱいあるじゃん。だけど俺は、“あのときに戻れますよ”ってチャンスを貰ってきているのが今の自分って思うようにしてるの。そして、“明日は今日の続きじゃない”って思ってる。それは、“未来の自分がこういうふう to 輝きたいって思っているから、今の自分じゃなくて未来の自分を助けるためにやってるんだ”って考えているのね。だから、“今の自分は未来から来た自分”だから、もう他人だと思ってもいいくらい。今やることは未来の自分を助けるため、と思って自分を大切にしてほしい。校長が言ってくれたみたいに、「毎日を全力で生きてほしい」ということにも繋がるんだけど、今“焦ってる”“悩んでる”って想っていても、毎日を頑張っ to ほしいから「今は未来から来た自分。だから大切に」という言葉を贈りたいと思います。

「今」と「未来」について、さかた校長のように考える人は多いと思います。こもり教頭のような考えを映画の映像として見たことはあっても、言葉として見聞したのは初めてのような気がします。

前者をありふれていると言うつもりはありません。今を頑張れない自分がいつも言い聞かせている考え方です。例えば、ジェネリック医薬品のCMで、高橋英樹がこう語ります。「常に“今”を見えています。未来は“今”の積み重ねの上 to できるんだ!」と。小田和正は、明治安田生命のCMに書き下ろした曲『風を待って』の中で、「今は戻れないから大切なんじゃなくて、今を重ねて明日へつながっていくから ずっと待っていた」と歌っています。

ただ、こもり教頭 of 言葉は、新しい発見でした。“「あのときに戻れますよ」ってチャンスを貰ってきているのが今の自分” “「今」頑張ることは、「未来」の自分を助けるため” また、こんな自分を励ます言葉に出会いました。受験でも、勉強でも、部活動でも、仕事でも・・・今を頑張れていない人、行き詰っている人に読んでほしいと思いました。

行き詰っているのはあなただけではない。みんな自分を励ます言葉や自分が奮起する機会を探しながら、懸命に生きているんだと思います。一人ではない。あなただけではない。くじけず to 「あと一歩前へ」

人生の達人セミナー

11月5日（木）、波佐見町の（株）スチームシップ／キャプテン、CEOの藤山雷太氏をお招きし、人生の達人セミナーを開催しました。

以下は、生徒の感想文です。「講演の最後の質問コーナーが、印象的だった。皆とても良い質問をしていて、藤山さんの答えにも共感できた。自分ができることを増やしていつ to 、周りと比較しないという言葉に心を打たれた。私も色々なことに挑戦し、できることを増やし、その中で一番興味を持つものを早く見つけたい。」「『価値がない to 、無視される』という言葉が、心に残った。自分は、友人達やクラスの中での役割とか、立ち位置とかを考えていたけど、自分の存在価値を見つけて、そこを伸ばしていけばいいと思った。どんなアイデアを実行するにしても、起業するにしても、勇気と決断力が必要だと思う。そういうことを簡単に言う to のける藤山さんって、本当に格好いい。」

放課後には、2年生が企画した「ワールドカフェ」に、藤山さんにも参加していただき、更に交流を深めることができました。今後もこのような取り組みを行うことで、生徒にエネルギーを与え、主体性を育てていきたいと考えています。

（キャリア支援部）



校内マラソン大会

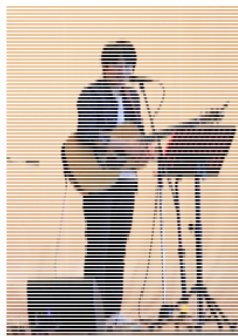
11月10日（火）絶好のマラソン日和の中、第27回校内マラソン大会が開催されました。今年度は競技場改修や新型コロナウイルス対策のため、コースを大幅に変更でのレースとなりましたが、密を避け、スペースを利用しながら男女それぞれが互いを応援している姿が印象的でした。今年もクラス・学年の枠を超えた西高生の繋がりを感じるレースとなりました。生徒1人1人が自分のペースを守りながら、1つでも前の順位へ、1秒でも早くゴールしようと必死になって取り組んでいました。

大会の開催にあたり、育友会の皆様の温かいご支援本当にありがとうございました。
大会準備期間を通して、生徒の体力は目に見えて向上しており、高校生の可能性を感じた1日となりました。今後も体育の授業では健康の保持・増進の為に、しっかりとした体作りに励んでいこうと考えています。（体育科）



芸術鑑賞会

10月29日（木）本校体育館にて、芸術鑑賞会が行われました。今年は新型コロナ感染拡大防止のため、本来予定していた県外からの公演は次年度へ延期し、卒業生の演奏会を鑑賞しました。第1部は第50回生で現在はチャイコフスキー記念ロシア国立モスクワ音楽院研究科在学中（2020年度ロシア連邦政府奨学生）の荒川楓さんのピアノ演奏、第2部は、第40回生でシンガーソングライターの村島佳佑氏のギター・歌を鑑賞。コロナ禍で3年生のみと1・2年生に分け、同じステージを2回実施していただきました。卒業生であるということもあり、先輩の頑張っている姿に励まされ、こころ温まる演奏にとっても癒された時間を過ごすことができました。3年生は、「歌詞が心にしみ、背中を押してくださったようで、自分が選ぶ目の前にある道を信じて前に進んで行きたい。」「日頃の受験勉強の疲れが癒され、残り少ない時間、最後まで頑張って行こうと思った。」との感想が聞かれました。（生徒会）



主な試合などの結果

<陸上部>

○令和2年度全九州高等学校体育大会第38回九州高等学校新人陸上競技大会

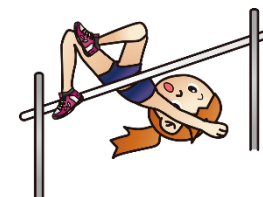
女子走高跳 第2位 岩崎 萌

女子400mH 第4位 森 愛里

女子七種競技 第5位 岩崎 萌

女子4×400mR 第8位 三ヶ島如菜 森 愛里 北村和望 久保川悠

○令和2年度長崎県高校総合体育大会駅伝競走大会 男子：18位 女子：10位



<柔道部>

○令和2年度佐世保地区新人体育大会柔道競技

個人の部 男子81kg 優勝 竹内 寛之

女子52kg 優勝 佐々木 綾



<ハンドボール部>

○令和2年度佐世保地区高等学校新人体育大会ハンドボール競技

男子 優勝、 女子 第3位



<放送部>

○令和2年度長崎県高等学校総合文化祭第42回九州高校放送コンテスト県北大大会

アナウンス部門 優秀賞 西村 友里

野澤 元、 山口 真奈

朗読部門 優秀賞 西山 理々奈、宮崎 なつ、吉富ゆり子

○令和2年度長崎県高等学校総合文化祭第42回九州高校放送コンテスト長崎県大会

テレビ番組部門 優秀賞 西村 友里（九州・全国総文祭出場）

優秀賞 山口 真奈

<図書文芸部>

○令和2年度長崎県高等学校総合文化祭文芸コンクール

部誌部門 佳作「文雅」、 短歌部門 佳作 富澤 優、俳句部門 佳作 池口知嘉子

<西高太鼓>

○令和2年度長崎県高等学校総合文化祭郷土芸能部門（和太鼓）

金 賞

<その他>

○長崎県高等学校コンクールピアノA部門

銅賞 田端 施那



《12月の行事予定》

4	(金)	定期考査(～8日)
5	(土)	プレテスト②(三校合同・3年長崎国際大)
6	(日)	プレテスト②(3年西高)
14	(月)	国内研修旅行(～17日 2年)
19	(土)	県一斉(1・2年) プレテスト③(～20日 3年)
25	(金)	冬季講座(～26日 全学年 ～28日 3年)
28	(月)	冬季講座(3年) 小論文セミナー・模試(1・2年)
29	(火)	プレテスト④(～30日 3年)
31	(木)	校舎施錠(～1月2日)

共通テスト55日前集会

2年生の「ふるさと創生大作戦」で、移住について研究しているチーム「17班=Mine 佐世保」が、「第23回ボランティアスピリットアワード」において、「コミュニティ賞」を受賞しました。SNSでの情報発信や、パンフレットの作成、MRの料金表を見やすくして地域活性を目指していることが認められた形です。

また、同チームは、11月16日(土)に和歌山市で開かれた「第3回和歌山県データ利活用コンペティション」の最終審査会においてプレゼンテーションを行い、高校生の部で「大賞」を受賞しました。今後の活躍が楽しみです。



コミュニティ賞
受賞